

## なたねの機械化省力栽培について

吉倉吉司・広浜正人  
(鹿児島県農業試験場)

YOSHIKURA, K. and HIROHAMA, M.  
On the Method of Machinal Cultivation in Rape plant.

### 1. はじめに

なたねの省力栽培法として小型施肥播種機使用による、機械化省力栽培の試験を試みたのでその概要を報告する。

### 2. 試験方法の概要

供試品種 アブラマサリ，1区面積および区制1区1aの1区制，播種期10月20日，供試ほ場の畑，試

第1表 試験区の構成

項目 区別	畦 間	株 間	1a 当り 株数	施肥量 (1a当り)							摘 要
				三要素成分			堆肥石灰硼砂				
				N	P	O	堆肥	石灰	硼砂		
標準区	50 cm	25 cm	666 株	840 gm	594 gm	600 gm	120 kg	10 kg	0.1 kg	除草剤は 使用しない	
省力区	畦畔1m で条間 30, 溝巾 70cmの 3条	15 cm	952 株	1,190 gm	480 gm	360 gm	120 kg	10 kg	0.1 kg	DPAを 1a当り 30gm散 布	
省力増肥区	〃	15 cm	952 株	1,785 gm	720 gm	540 gm	180 kg	10 kg	0.1 kg		

験区は第1表のとおりで，標準区は当场直播試験耕種法により行つた。省力区は富士式の施肥播種機を使用した。間引は2回行い1本立とした。

### 3. 試験成績

生育収量調査の結果は第2表のとおりである。

施肥量が異なるので直接の比較は出来ないが，省力区は草丈を高く m<sup>2</sup> 当りの分枝数も多く収量も多くな

第2表 生育収量調査

項目 区別	抽苔 期	開花 期	成熟 期	草 丈	穂 長	1m <sup>2</sup> 当 り1次 分枝数		1穂 数		閉核 病	1a当 り子 実重	同左 比率
						本	個	個	個			
標準区	2.10 月日	3. 8 月日	5.17 月日	137 cm	37 cm	93	42	43	23.4	100	100	
省力区	2.10	3. 8	5.18	161	35	124	43	ビ 少	27.9	119		
省力増肥区	2.10	3. 9	5.18	165	40	105	39	ビ 少	29.6	127		

つている。

第3表 労力調査成績 (1a当り)

項目 区別	播種 作業	同左 比率	管理 作業	同左 比率	収穫 作業	同左 比率	合計		同左 比率
							時間分	%	
標準区	1.57	100	3.40	100	4.07	100	9.44	100	
省力区	1.33	28	2.07	58	7.21	179	10.01	103	

労力調査の結果は第3表のとおりで，播種および管理作業は標準区に比較して省力になっているが，収穫作業に時間を要している。

### 4. むすび

小型施肥播種機を使用して試験を行つた結果，本年の成績から考え機械による省力栽培は可能と思われる。労力調査の結果，播種管理作業は標準区に比較してかなり省力になっている。今後，施肥播種機の性能がよくなれば間引作業は不要となり，更に省力出来ると思われる。収穫作業に時間を要しているので，収穫作業を機械化と併せての検討が必要と思われる。